

# 新 し い 施 策

## 最 近 の 畜 産 の 動 き と

岡山県畜産課長 出口 孝吉

最近の畜産はいろいろな意味で話題になつてゐる。

第一が牛肉の問題で、牛肉が不足して、カズノコのようにわれわれの口にはいらなくなつてしまふとか、

これに伴つて肉牛の増産対策、外國種肉用牛の輸入等々新聞紙上を賑わしている。現実に牛の頭数は年々減少し、全国では二七二万頭が一八七万頭となり、岡山県でも一二万頭の和牛が六万八千頭に減少している。

この減った分だけは、牛肉で消費されている訳であるが、現在のように頭数が減少すると牛肉が出廻らなくなるのは当然である。このような事態に対処して、国でも肉用牛の増産計画をたてているが、岡山県でも国策に呼応して肉用牛振興計画を樹立し、肉用牛のための草地利用や牛の導入対策を計画している。畜産公社の設立もその一環をなすもので、牛の貸付や育成場、繁殖センターの経営等を行い、肉牛資源の維持培養をはかつてゆこうとするものである。低迷久しかった子牛価格も昨日はかくした子牛価格も昨日

係で、枝肉価格は低落の一途をたどつてゐるが、今度の指定によつて岡山市場における価格安定がはかられる訳である。

一方鶏卵価格は昨年夏以来堅調を示しているが、容易に増産できるものだけに価格低落の危険性もあり、生産調整や価格安定の必要が痛感されるが、事業団、各具等の出資による鶏卵価格安定基金制度が本年夏に確立されつつあるが、牛肉や牛乳についてはただ単に価格が保証なり安定さればすぐに増産されるものではなく、飼料基盤の問題や家畜導入対策が伴なわなければならない。また個々の農家の経営条件の整備や経営内容の改善に努めなければ、生産費を補うことができないのはいうま

り、まず草作り、牛作りをやって生産をあげることが基本で、畜産物の消費にみあつた生産をする体制の整備をはかることを、考えなければな

秋來復調し、全県下に肉牛増産の意欲がわいてるので、この際本格的な肉用牛の振興をはかりたい。

酪農については不足払制度が四月一日から実施され、加工原料乳について保証価格が一・八七五キロ当たり六九・四三円、基準取引価格五九・六四円が告示され、九・七九円の補給金が交付されることになった。

從来価格補償がなかつたために生産農家の不安があつたが、今や待望の価格制度が確立されたのである。酪農家は安心して牛乳の生産に努めて頂きたい。

次に四月一日から、岡山県営食肉市場が畜産物価格安定法に基く指定市場に指定され、豚枝肉が安定基準価格二九五円以下に低落すれば畜産振興事業団が買入れることになった。最近豚の生産が増加している関

(三) 四月号目次

最近の畜産の動きと新しい施策

出口孝吉

ニュース……………2

A町のB酪農協業組合への畜産コンサルテーションの事例紹介……………4

畜地酪農の現状……………9

熱帶牧草の話……田中文哉……………15

養鷄農協だより……………16

酪連だより……………17

経済連だより……………17

編集室より……………24

畜産会より……………23

養鷄農協だより……………16

経済連だより……………17

編集室より……………24

畜産物の価格安定や流通改善に重点が集中される傾向があるが、もちろんその流通ルート等条件の整備をはかることは今までの畜産において欠けていた点であるし、施設的に大いに推進されなければならないが、その基調となるものは生産関係であることを忘れてはならないと思う。

畜産にたずさわるものは、畜産物だけを見ることなく、これを生産する家畜家禽をよく知ることが大切である。

畜舍、搾乳施設、冷却施設、スター式酪農機械  
牧草刈取機、乾燥機、尿撒布機、梱包機  
電牧器、牧柵、オーストラリア籠、灌水工事、一式  
鶏糞乾燥機、消毒機、其の他養鷄器具

岡山市柳町1丁目1番地17(小六農機2階)

小六農機株式会社  
農機共販部

電話岡山  
②0307~9  
③9505  
市外専用17

酪農

大阪	畜産公社要員	衛生係		飼料係		畜産係		酪農係		飼育係		係名 (課長補佐) ○三宅豊衛	
		牧 (構造改善主査)	井 (主幹) 木清治 富男	今 (主幹) 本香彦	高 (主任) 塚直	三 村剛	竹 (構造改善主査) 内秀雄	渡 (課長補佐) 辺明喜	永 仁	小 郷文雄	鶏 林和弘		
天野	毅	道繁孝一	遠藤原若彦	石井達彦	藤井修	松井伸	牧野利	堤兼秋坪	末長讓	原滋	馬場博	行之	石田正之 植月昌彦
									森大二	森照章	井敏一	和弘	泰嗣

県畜産関係機関人事移動

家畜保健衛生

場名 役付職員 ○主事、技師



←葦川会館での一般展示

#### ワンセットのト体(農林大臣賞)

初の試み

岡山県ブロイラー共励会盛

会裡に終了

岡山県養鶏協会では、ブロイラー（若鶏）の消費宣伝と生産技術の向上を図るために、第一回県ブロイラー共励会を去る三月二十二、二十三日の両日、岡山市で開き、初期の目的を十二分に果して盛り裡に終了した。

現存高山県下に於ける飼育羽数は五百万羽以上で、飼われており、飼養羽数も約十万羽で、中国五県では最も多く、全国でも第五位という、わが国有数の養鶏県。採卵鶏が伸びてゐる一方、最近の肉需要の増加から肉用のブロイラーの生産も年々三〇%と著しく伸びて、昨年は県上で百五十万羽が生産され、若鶏を飼養する農家も急激に増えてきました。脚光を浴び始めたブロイラー養鶏が、今後正常な発展をするためには採卵養鶏同様、生産技術の向上と生産組織の整備、流通の合理化を強力に推し進めなければならぬと、いふて、今回の共励会はこの意図を目的として、ブロイラーの品質向上、生産經營技術の改善のために開かれたのである。



肉用牛講習会風景

酪農大學生校						市場肉食場		
(校長) 蔡 知 毅	(庶務課長) 山本 和	(場長) 濑島 源喜	(研究員) 崔並嘉芳	(研究員) 豊田繁正	(研究員) 大森忠逸	(研究員) 江原靖興	(研究員) 寺岡敏四郎	(研究員) 田中和道
(教務部長) 上原茂雄	(業務課長) 藤川武雄	(○) 黒田恒士	(中島信男)	(○) 中島信男	(○) 黒田恒士	(○) 中島信男	(○) 黒田恒士	(○) 黒田恒士
(飼料研究主任) 竹原宏喜	(天野省五郎)	松井英太郎	加賀徹也	江原和道	寺岡敏四郎	田中和道	大森忠逸	日野靖興
(衛生研究所主任) 石原和夫	(守屋典彦)	天野省五郎	中島信男	大森忠逸	寺岡敏四郎	田中和道	日野靖興	江原和道
(經營研究主任) 狩野理美	(健)	松井英太郎	加賀徹也	寺岡敏四郎	田中和道	大森忠逸	日野靖興	江原和道
(農場主任) 横見瀬宏德		中島信男	大森忠逸	寺岡敏四郎	田中和道	日野靖興	江原和道	大森忠逸



## 酪農と養鶏の実習

## 畜産指導者が熱心に勉強

畜產技術講習會

農林大臣賞	岡山市県養鶏加工連 県知事賞	久米郡 中島昭洋
優秀賞	久米郡	右原篁
都窪郡	神崎伸紀	
岡山市		
西大寺市	県養鶏農	
	石井正志	

一回の催しであったが、全般的に発育肉付は概ね良好で、上位入賞のものはいい欠点はみられなかつたが、細部の点をあげると、①重量・体形に齊一性欠ぐものがあつた。②下位のものにはがり・くぼみのあるものがみられた。同日令のものにおいて相当の差のあるのがあつた。④生体輸送時における損と飼育管理に起因する胸部水腫が欠点として認められた。⑤翼の骨折・脱臼・デモ・皮膚の裂傷・毛引時の湯の温度適による皮膚の損傷も一部にみられたと指摘していました。

会館で県栄養改善協議会と共催の栄養改善のつどいを開き、優秀ブロイラーの示と入賞者の表彰を行い、初期の目的達成して成果が讃えられた。

内牛の部 三月八日・十九日 岡山市  
酪農の部 三月十六・十七日 津山市  
養鶏の部 三月二十四・二十五日 岡山市  
不況ムードから立直ろうとする農家の喰い望にこたえるために技術指導者も真険であり、講義に実習に熱の入れ方も違つていた。講習内容は県外講師・石原感衛（全国和牛登録協会・肉牛）島津正日本大学・酪農 砂川泰夫（東京農業大・養鶏）による最近の畜産經營についての講演と、県内講師による、岡山県畜産会が作成した各家畜別経営技術指導指標の解説と、実習（大家畜の個体審査の方法・鶏の解剖と衛生）とに分れてそれを行われた。

## 畜産指導者が熱心に勉強 畜産技術講習会

# A町のB酪農協業経営への畜産コンサルテーションの事例紹介

## 畜産コンサルテーションの事例紹介

構造改善事業と共に県下各地に多くの酪農協業経営が発足しましたが、個人経営と違つて協業ということになるとなかなか運営の面で問題が多く発生し、また初めての経験ということもあって、今のところ成功例が少なく、現在その経営に苦しんでいる例も多いように見聞きしています。

四十年度に畜産会が行いました畜産コンサルタント事業で、対象とした酪農協業経営が一、二ありましたが、その内A町のB酪農協業経営（以下B酪農といふ）を受診者として、畜産会より常勤畜産コンサルタント以下県内最高クラスの酪農関係、自給飼料関係、農業経済部門の各専門家の非常勤畜産コンサルタントおよび本会の畜産コンサルタントの計六名のコンサルタント団で調査、経営診断と助言指導を行い、相当の改善効果をあげた例を紹介致します。

B酪農は五戸の農家で組織され、その内の三戸の農家より専従者四人を出し、運営されています。（概要是第一表のとおり）

発足は四十年三月で酪農協業としては一番新しいものと思われますが、それだけに協業について相当研究も行い、M酪農の成功例も参考として一応の見通しをもって始めたようですが、半年足らず後の四十年八月のコンサルタント団の現地診断の際は、すでに多くの問題をかかえて苦しんでいるという状態でした。その状態に対してもコンサルタント団は問題点を出し、改善対策を口頭および

助言書をもってB酪農、町農協、地区畜産技術者連絡協議会へ示しましたが、この助言書の線に沿つて、特に地区的技術者協議会が強力に指導を行い、四十一年三月コンサルタント団がグループ指導に現地に行つた際には、指摘した問題点に対してそれぞれ改善のあとが顕著に見られ、今後の見通しも明るいものが認められました。

幸い診断と手当が適切で早く行われ、地元の熱意もあったので効果があがったものと思われます。助言書にのせられた事項の内、主な問題点と改善対策について簡単に紹介します。

### ▼主な問題点と改善対策

- (一) 協業経営を行う上の責任体制が十分でない。一応組合長、経営、会計の分担はあるが、その責任を十分はたしていない。各自自分の家で個別に農業を営んでおり、農繁期には専従者も家庭の方へ労力を持帰るということであり、計画とか記帳とかいうものが無いし、会計は農協まかせという状態で、運営上の体制の整備が必要である。
- (二) 第三紀層の赤土地帯の造成地である為、町道から牛舎迄の私道、牛舎周辺および農道は雨が降れば泥の海となり、自動車、耕作機械の通行が止り、作業に支障を来たしているので早急な道路整備が必要である。
- (三) 乳牛飼養管理状態では特に問題点多い。（数字に現われる問題点と改善目標は第二表）

飼料の給与は間取調査の数字で計算すると、超高蛋白、高熱量となり、これも問題であるが、乳牛の栄養状態、乳量、それに粗飼料の準備状態から判断すると、明らかに粗飼料の給与量の不足が感じられ、給与は体重、乳量、個体別の条件の差を考えずにメグラ給与がされていて、栄養分、特に養分総量の不足が著しいものと考えられる。粗飼料の給与不足が主な原因となつて繁殖成績が悪くなり、前産迄の平均分娩間隔は一三・五ヶ月と良好であったのが、今年の分娩後は次々と種付が延びて空胎率五〇%という状態である。

第1表 概要 (40/8現在)

A 経営土地面積			C 設備、附帯施設、機械器具		
普通畠	230a		牛舎 1棟 (12m×36m) 鉄骨トタン屋根		
永年牧草地	23a		40のスタンチョン牛房、産室2、飼料庫1、牛乳		
畠 計	253a	22筆	処理室1、外サイロ(パンカー)1、堆肥舎1、		
採草地	600a		尿溜2		
放牧地	30a		乗用四輪トラクター1、耕耘機1		
小計	630a	13筆	カッター1、電牧機1		
総計	883a	35筆	ミルカー2、簡易冷却機1		

B 飼育乳牛頭数	
成牛	38頭
育成牛	2頭

第2表 乳牛飼育管理面の問題点と改善目標

項目	主な問題点 (40/8)	改善目標
成牛平均体重	514Kg	530Kg → 550Kg
搾乳牛1頭当1日泌乳量	10.3Kg	15Kg → 17Kg
全成牛 "	9Kg	12.3Kg → 14.5Kg
経産牛1頭当たり年間産乳量	3,500Kg (推定)	4,500Kg~5,500Kg
F M率	51.6%	40%~30%
成牛1日当たり粗飼料給与量	41 Kg(間取り)	50Kg~55Kg
平均分娩間隔	13.5ヶ月	13ヶ月~12ヶ月

乳量も表のとおり極めて少なく、二等乳、乳房炎の発生も多いようである。これら問題点に対して先づ粗飼料の給与を十分行う。計画をたてて粗飼料を栽培し利用する。栽培収穫に機械化が十分でないで人力依存の面が多い、労力不足となり思うように供給ができないので、この面での改善をはかる必要があるが、これは次の自給飼料関係の項で述べる。

飼料給与は計算をし、個別に一ヶ月に一度くらい給与表を作つてこれを基準として給与する。過不足のないようにしていけば乳量もまた増加し、繁殖成績も良くなるが、極度に資質の悪い牛がいるのでこれは淘汰して全体の平均を高くする必要がある。

(四) 施設については相当資本をかけし細部について色々と問題があるが省略する。

特色としてバンカーサイロがある。成牛1頭当たり資産固定比率はブルドーザーを使用し、蓋はビニール布を利用した水蓋である。詰込材料の運搬が遅れて圃場に放置した為、予乾が十分できて期せずしてヘイレージとなつた。どうが、品質は極めて優秀であった。

(一) 協業組織上のリーダーを一人おき、命令系統を作り、各自責任分野を決めて運営を行う必要がありはしないか。平等な出資者であるというの

で作業も平等に分担して、誰が責任者となつていいのか明瞭でないと思われる節がある。

第3表 経営分析指標

項目	管式	現状	目標
自己資本比率	自己資本 総資本	9.7%	40%以上
固定比率	自己資本 固定資産	11.2%	100%程度
成牛1頭当たり資産固定比率	固定資本 成牛換算頭数	21万円(40/8) 25.6万円(41/3)	20万円以下 "
成牛1頭当たり負債	総負債 成牛換算頭数	21.1万円(40/8) 25.3万円(41/3)	15万円以下 "
設備投資安全率	固定資産 自己資本+長期借入金	184%	100%程度
利益率等	3ヶ月の実績であるので省略する。		

乳量も表のとおり極めて少なく、二等乳、乳房炎の発生も多いようである。

これら問題点に対して先づ粗飼料の給与を十分行う。計画をたてて粗飼料を栽培し利用する。栽培収穫に機械化

が十分でないで人力依存の面が多い、労力不足となり思うように供給ができないので、この面での改善をはかる必要があるが、これは次の自給飼料

関係の項で述べる。

飼料給与は計算をし、個別に一ヶ月に一度くらい給与表を作つてこれを基準として給与する。過不足のないようにしていけば乳量もまた増加し、繁殖成績も良くなるが、極度に資質の悪い牛がいるのでこれは淘汰して全体の平均を高くする必要がある。

(五) 自給飼料栽培面での問題点もまた多く、総面積八八三haの圃場が三五筆に分れて各所に分散し、農道の不備と併せて機械化を困難とし、労力不足をおこして計画どおりの粗飼料の供給ができず、あらゆる面に悪影響を及ぼしている状態である。

対策として助言書に示されたものは先づ交換分合をして牛舎周辺に圃場を集め農道を整備する。

次に理想としては、各種耕作機械をひととおり揃えて完全機械化をして粗飼料を効率的に供給し、労力不足が原因となって起つてあるあらゆる問題をなくする。

しかしこれには資本が莫大に必要であり、現在の借入資金も相当多く、これ以上は無理であるので、徐々にこの方向に進む目標とする。次は圃場を集めて牧柵を作り、放牧形式の飼育に切り換えて省力的に飼育をはかる。その場合想収量に合せて不良牛の淘汰をはかり、精英主義をとつて再建をはかるべきである。青刈給与方式をとった場合の量よりみた飼育可能見込み頭数は、二八頭程度の計算となる。

更に細部に亘る栽培技術面での助言もあつたがこれは省略する。

(六) 経営面については、第一に自己資本の出資金が大変少ない。現物出資を多くしているが、一率一戸三〇

万円と決めて超過分は買上げているので借入金が多く、乳牛一頭当たりの償却費、金利負担、償還金負担が多くなっている。(数字的なものは第三表のとおり)

収支の面では三ヶ月の実績であるので、これをもとに診断するのは早計であるが、この実績においては未だ黒字である。

専従者への給料は相当多く支払っており、出資金も増すべきである。

収支の面では三ヶ月の実績であるので、これをもとに診断するのは早計であるが、この実績においては未だ黒字である。

専従者への給料は相当多く支払っており、出資金も増すべきである。

(一) 経営改善により前途に希望が出て、意欲的に経営に当る気風が見られるようになった。

(二) 道路と牛舎周辺はバスを入れ改善された。

(三) 不良牛が六頭淘汰され、栄養状態も改善され、平均体重も増加しました。

(四) 掐乳牛一頭一日当たり平均必乳量一五Kgと四・七Kg増加した。

(五) 飼料給与法も改善され、F.M率も三九・六%となった。

(六) 病的空胎牛がいなくなった。

(七) 農道も整備されている。

(八) 作付計画も指導員の指導のもと作られ、圃場地力増進のため厩肥の全面散布が行われている。

(九) 以上のとおり本年度事業も終了、一応の目的をはたしましたが、今後更に助言書の方針に沿つて改善をはかる必要があ

ります。

今後の改善方法について更に私見を述べますと、

## 輪換放牧による草地利用計画を立てる上での問題点

(畜産の研究三月号)

の間に十分な休養期間をとり、根に十分な栄養分の蓄積を可能ならしめること。

### ○ 一草不採食の原則

根に蓄積された貴重な栄養分の力でわずかに伸びたまだごく短い草が、再び採食されることは牧草にとって非常に有害であるから、一牧区の放牧期間は可及的短期間とし、同じ草が二度採食されることを極力防止すること。

### ○ 最大採食の原則

牛の嗜好は若い草に向けられる。能力が高く、最大の栄養分摂取を必要とする牛が最良質の草を最大量採食しうるように計画すること。

### ○ 短期間利用の原則

新しい草地に牛を入れたときの採食量が低下する。従つて一牧区の放牧はなるべく短期間に終了すること。

○ 牧草休養の原則

牧草の再生力の根源は根に蓄積された栄養分であるから、放牧と放牧

おり、出資金はできるだけ多く、受取る給料はできるだけ少なくするという原則に反している。経営の安定する迄は給料をできるだけ少なくする必要があり、出資金も増すべきである。

概要以上のとおりの助言指導を行いその後は地元に指導対策連絡協議会を設けて現地指導を行いましたが、その改善効果としては次のとおりであります。

おり、出資金はできるだけ多く、受取る給料はできるだけ少なくするという原則に反している。経営の安定する迄は給料をできるだけ少なくする必要があり、出資金も増すべきである。

概要以上のとおりの助言指導を行いその後は地元に指導対策連絡協議会を設けて現地指導を行いましたが、その改善効果としては次のとおりであります。

(二) 不良牛を淘汰して頭数を減らし、また圃場の収量に合せた頭数

にして粗飼料の自給率を高め、精銳主義をとつて着実に規模拡大を進めて行くという基本方針で良いと思うが、頭数を減らせば一頭当たりの償却費、金利償還金、労賃が増加していくことになる。これらは各牛の生み出す利益から支払って行くのであるから、当面の問題として他に良い方法があれば頭数を増加しても良いのではないかと思われる。

日本大学農獸医学部島津助教授の説をると平均乳量五、〇〇〇Kgを維持する為に基礎牛と調整牛に分けて考える。

A、基礎牛とは平均泌乳量六、〇〇〇Kg以上期待でき、種付回数二回以内、平均分娩間隔一ヶ月以内、優秀な子牛を生み、耐用年数六年以上が期待できる牛で、これには良質の粗飼料を十分給与して系統的に自家育成する。

B、調整牛とは産乳量の増大を期待し、場合によっては一腹しほりとして泌乳期間一五~三ヶ月以上とし、経営にとって金体的乳量を増し、平均乳量を五、〇〇〇Kg以上にするのに役立つ牛。搾り切った後肥育を行い高価に販売する。従つて受胎させる事は二次的三次的にしか考えない。

#### C、調整牛の調達の方法と選定条件

①、經營内から調整牛を選定する時

の条件は三~五頭以上の牛。産乳量は高いが繁殖機能に欠陥がある

種付回数三回以上の牛。平均分娩間隔の長いもの。比較的乳期が長いと予想されるもの。体格大で体力があり濃厚飼料や粕類の追込みに耐えるもの。

②、他から購入する場合は分娩後二ヶ月くらいで、その時点での乳量の増大が期待できる牛。比較的安い牛。導入時比較的やせている牛。体格大で体力のありそうな牛。その他

#### D、調整牛所有の經營的条件

①、廃牛を肉肥育していく技術のあること。

②、家畜商的なセンスをもつて良心的な家畜商との結び付きのあること。

③、運転資金があるか、借入できる信用のこと。

④、調整牛の数は乳牛一〇頭の場合で一頭、一五頭規模の時三頭、二〇頭の規模で五頭の割である。頭数の増加につれ比率は多くて良い。

以上で島津説の紹介は終りますが、調整牛といえども粗飼料は要求する量だけは与える必要があるので、良質でなくては確保しなければなりません。契約栽培

残渣利用その他可能な方法でこれを求めることが必要で、濃厚飼料と粕類だけで牛は飼えません。

B、酪農の場合サイロに満杯すると四〇種付回数三回以上の牛。平均分娩間隔の長いもの。比較的乳期が長いと予想されるもの。体格大で体力があり濃厚飼料や粕類の追込みに耐えるもの。

②、他から購入する場合は分娩後二ヶ月くらいで、その時点での乳量の増大が期待できる牛。比較的安い牛。導入時比較的やせている牛。体格大で体力のありそうな牛。その他

③、廃牛を肉肥育していく技術のあること。

④、家畜商的なセンスをもつて良心的な家畜商との結び付きのあること。

⑤、運転資金があるか、借入できる信用のこと。

⑥、調整牛の数は乳牛一〇頭の場合で一頭、一五頭規模の時三頭、二〇頭の規模で五頭の割である。頭数の増加につれ比率は多くて良い。

B、酪農では現在自給飼料の供給が計画どおりいかず、生産費もなかなか安くできないということで、急場しのぎにビル粕を年間契約で購入し、その他ビートパルプや製造粕を色々と買われていますが、良質の粗飼料を効率的に低生産費で生産し給与するという原則は必ず守つてもらいたいと思います。それが一番利益を多くし、牛の生理にもかない、系統的に後継牛を育てて經營を安定さす方法だ

精神修養の為に酪農をしているのではなく、協業では利益を少しでも多く出す為に酪農をしているのですから、どうしでも粗飼料を自給して自給率を高め、F.M率を低くしなさいというわけではありません。

しかしできたらその方式が一番利益が多いはずという考え方で、助言書も書かれています。この線に沿つて今後進んでもらいたいと希望して、この事例紹介を終ります。

(文責植田拓士)

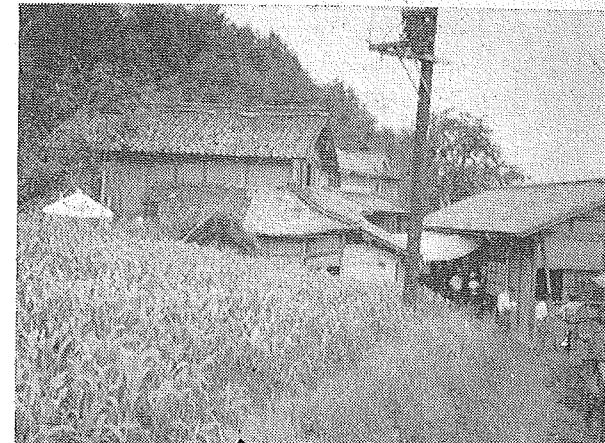
と思います。

最近カス酪農ということでビール粕その他製造粕の利用が増加し、安易な方向に進む面が見られます。先進地を見学し、カス酪農でも案外種もつき、繁殖障害も起さず樂にもうけているというようになります。また牛を見る眼も相当肥えて、家畜的センスも発達しているものだと思います。

粗飼料は自給していないが、野菜クズやその他の地帯で安く多量に入手できれば育肥に切換え、産乳飼料と肥育用飼料はその牛が産み出す乳代でまかなえるということです。現在の高枝肉価格の統一価成への助けとなりません。乳量が下れば育肥に切換え、産乳飼料と肥育用飼料はその牛が産み出す乳代でまかなえるということです。現在の高枝肉価格の統一価成への助けとなりません。乳量が下れば育肥に切換え、産乳飼料と肥育用飼料はその牛が産み出す乳代でまかなえるということです。現在の高枝肉価格の統一価成への助けとなりません。乳量が下れば育肥に切換え、産乳飼料と肥育用飼料はその牛が産み出す乳代でまかなえるということです。現在の高枝肉価格の統一価成への助けとなりません。乳量が下れば育肥に切換え、産乳飼料と肥育用飼料はその牛が産み出す乳代でまかなえる

# 「畠地酪農の現状」

## 飼料基盤と購入飼料



原料乳生産者補給金等暫定措置法)

がこの四月から実施されたことによつて、停滞ムードの酪農に新しい息吹を感じられてきた。これまでの混合乳価が用途別価格となり、加工原

料乳に対して不足払い(保証)がされるわけであるから、酪農家は飼養規模の拡大、飼料自給度の向上等によってその經營を近代化して、利益

を多く産み出すことに努力を集中すればよいのである。多頭飼養家は特に有利になつたわけで、飼養形態の失われる酪農地は衰退しており、中北部の放牧採草に可能な林野や山地等を改良活用しての省力管理によつて、停滯ムードの酪農に新しい息吹を感じられてきた。これまでの混合乳価が用途別価格となり、加工原

料乳に対して不足払い(保証)がされ、これが新乳価制度(加工原

原料乳生産者補給金等暫定措置法)がこの四月から実施されたことによつて、停滞ムードの酪農に新しい息吹を感じられてきた。これまでの混合乳価が用途別価格となり、加工原

料乳に対して不足払い(保証)がされ、これが新乳価制度(加工原

原料乳生産者補給金等暫定措置法)がこの四月から実施されたことによつて、停滞ムードの酪農に新しい息吹を感じられてきた。これまでの混合乳価が用途別価格となり、加工原

料乳に対して不足払い(保証)がされ、これが新乳価制度(加工原

原料乳生産者補給金等暫定措置法)がこの四月から実施されたことによつて、停滞ムードの酪農に新しい息吹を感じられてきた。これまでの混合乳価が用途別価格となり、加工原

料乳に対して不足払い(保証)がされ、これが新乳価制度(加工原

原料乳生産者補給金等暫定措置法)がこの四月から実施されたことによつて、停滞ムードの酪農に新しい息吹を感じられてきた。これまでの混合乳価が用途別価格となり、加工原

料乳に対して不足払い(保証)がされ、これが新乳価制度(加工原

牛乳生産費を下げ、經營の安定を図る力点は、良質粗飼料の増産確保であるといえる。岡山県畜産会の行つてゐる畜産コンサルタント事業でも、この面の助言を行つて、自立經營農家の育成に力を注いでいるのである。

しかししながら、畜産の現状のなかで考慮られることは、水稻の現在の有利性に匹敵するものはない実状であるので、水稻をつぶしてまでも草

を作ることで、助言書も書かれています。この線に沿つて今後進んでもらいたいと希望して、この事例紹介を終ります。

(文責植田拓士)

</

開かれた。現在も相当の面積に作付けされている。

しかし、タバコ作りは大変な重労働、それも委節的なのがはげしく、家族全員にかかる負担も大きいものである。これの作付けによって、所得の増大を図るには限界が存在することはあきらかである。そこで、ある農家は酪農を

所有耕地面積は普通畠が一三八a、採草地六〇a、牧野四〇a、山林原野一〇〇a、計三三八aで、水田は全くない。普通畠のうち三五aの桑園と若干の自家菜園を除いては、飼料作専用圃としている。しかしこの畠地は、一枚に分散しており棚畠となっているところも多いが、住居の近所に点在しており割合に往復運搬等の便利はよい。

労働力は経営主夫妻で、あとは子供の手伝い程度である。專業酪農への段階をみると、昭和三十年頃まではタバコ、雑穀が主体の経営であったが、天候に左右され易いこと、病害等による不作を避けるため、三十一年頃より乳牛二頭を導入して酪農とタバコ作の経営に替り、三十六年より酪農専業に切り、厩肥の処理場として桑園三五aを造成した。ゆくゆくは搾乳牛二〇頭の経営とし、余力で養蚕もやりたい意向である。この牛に当て、優良牛を揃える方針である。これら搾乳牛の登録の有無をみると、高等登録一頭、血統登録四頭となっており、あと二頭は雑種であるが能力はかなりすぐれている。

つぎに、経営主が時価（昭和四十一年七月）で見積った評価額から能力、資質をみると……高等登録の牛が二三万円、あと一八万円が一頭、一四万円が五頭となり、平均すると一頭当たり一六万七千円である。それではこれらの牛はどのくらいの能力をもっているであろうか。残念ながら個々についての詳しい記録がないためわからないが、牛乳販売高から逆算

年間の飼養管理総労働時間は二、一一一・八時間で、一人一日当たり労働時間は二・九時間、年間一頭当たり二・九時間（雇用を含める）であるからこれにくらべるとどうう省力化が進められている。

## 一、経営の概況

取入れたわけであるが、これも現状ではまだ利益が上がるところまでいってない。しかし、このような土地条件のところでの収入の増大を図るために、広い山林原野を利用しての酪農が特に有利であると思われる。それにはまず第一に、畠地酪農としての経営の基盤をしっかりと確立することが必要である。

## 況

乳牛部門 飼料生産部門 計 労働時間	2,111.8時間	1,074.5時間	3,186.3時間
	1日当たり労働時間	8.7時間	65.5分
1日1頭当たり労働時間 労働時間割合	66.3%	66.3%	33.7%
	乳牛部門 飼料生産部門	計	1日1頭当たり労働時間

酪農経営において収益を上げるために、生産過程の基礎をなす能力のよい牛を揃えて飼育しなければならないが、この事例の乳牛をみると、現在成牛七頭、育成牛三頭（うち子牛二頭（このうち一頭は育成委託中））の計一〇頭であるが、自家産は僅か育成牛三頭のみで、成

## 二、繁殖養乳牛

牛は全て導入牛である。導入牛の产地は、美星町、高梁市が各二頭、北房町、落合町、石川県産のもの各一頭となつてゐる。経営主は酪農歴一〇年の経験者で牛を見る目を養つてゐるようで、ほぼ基礎牛とするべきものが揃つたようなので、今後は自家産のものを育成して更新

区分	事例	農林省39年調査平均	
		県	全国
從業者	2.0人	3.4	3.1
成牛換算頭数	8頭	—	2.4
経産牛	7頭	5.0	—
年間飼育管理労働時間	2,111.8時間	—	—
1日当たり労働時間	5.8	—	—
1日1人当たり労働時間	2.9	—	—
1日1頭当たり労働時間	43.4分	—	—
年間1頭当たり労働時間	264.0	417.1	489.6
年間経産牛1頭当たり	280.2	—	—
1頭当たり年間労働費	23,760円	33,687	938
牛乳100Kg当たり	477円	659	27.7
飼料の調理給与	25.9%	24.4	38.8
搾乳、牛乳処理搬入他	43.2	41.3	10.0
作業別労働時間割合	4.3	9.6	12.8
手敷料の搬入搬出	2.9	—	10.7
その他	23.0	14.0	10.7
小計	0.6	10.7	10.7

## 三、労働とその費用

牛乳の運搬に時間がかかるといふのは、カド先の近いところに集荷所があるので、そこまで集乳車が坂道を登つてくるからである。

牛乳の運搬に時間がかかるといふのは、カド先の近いところに集荷所があるので、そこまで集乳車が坂道を登つてくるからである。

牛乳の運搬に時間がかかるといふのは、カド先の近いところに集荷所があるので、そこまで集乳車が坂道を登つてくるからである。

## 四、飼料の生産と給与

第3表 飼料作物作付状況					
区分	作付面積	成牛1頭当たり	10a当たり収量	総収量	成牛1頭当たり
デントコーン	97a	—a	5,700Kg	54,850Kg	—Kg
イタリアン	66	—	5,500	36,000	—
大麦	18	—	4,500	8,100	—
カブ	14	—	5,000	7,000	—
計	195	24.4		105,650	13,200

飼料作物作付状況は第三表のとおりで、デントコーンとイタリアンライグラス

第4表 収支表

項目	金額	成牛1頭当たり	割合
収入			
牛乳収入	1,102,912	137,864	76.1
子牛販売収入	47,360	5,920	3.3
廃用牛販売収入	100,000	12,500	6.9
育成牛増殖見積り収入	130,000	16,250	9.0
厩肥見積り収入	68,575	8,572	4.7
粗収入合計 (A)	1,448,847	181,106	100.0
支出			
① 直接経営費			
飼料費			
購入飼料費	678,995	84,874	74.4
濃厚飼料	514,570	64,321	56.4
イナワラ	493,570	61,696	54.1
自給飼料費	21,000	2,625	23.0
種子、種苗費	164,425	20,553	18.0
肥料費	18,000	2,250	2.0
農具償却費	86,875	10,859	9.5
直接諸材料費	59,550	7,444	6.5
賃料々金	19,900	2,488	2.2
建物施設費(償却のみ)	55,300	6,913	6.1
大農具費	7,300	913	0.7
償却費	36,588	4,574	4.0
修繕費	5,588	699	0.6
小農具費	31,000	3,875	3.4
乳牛償却費	5,000	625	0.5
小計 (B)	853,083	106,635	93.4
事業総利益 (A-B)	595,764	74,471	
② 管理費			
公租公課	—	—	—
販売経費	57,719	7,215	6.3
小計 (C)	57,719	7,215	6.3
事業所得 (A-B-C)	538,045	67,256	
③ 事業外損益			
支払利息	2,160	270	0.2
小計 (D)	2,160	270	0.2
費用合計 (E=B+C+D)	912,962	114,120	100.0
当期事業所得 (A-E)	535,885	66,986	
④ その他			
自家労賃	271,710	33,964	
飼養管理	168,210	21,026	
飼料作	103,500	12,938	
自己資本利子	96,786	12,098	
地代	82,800	10,350	
小計	451,296	56,412	
当期純収入	84,588	10,574	

## 五、資本の構成

を主体にした単純な構造である。このことは、単調な栄養になることは抜きにして、栽培労働を省力化するための効果は大きいと思われる。

しかし、土地の利用率は悪く、一六〇%の利用にすぎない(一九五〇年一二二〇年)。ただここで変っている点は、普通はデントコーンを条播するが、今までやっていることである(写真参照)。肥料を入れて耕耘した後、コーンの種子を散播してそのまま放置し、生長

### とうもろこしばらまき状態

すれば刈取り利用しているわけである。しかし基肥の施用が悪いのか、肥料不足の感があつて収量は上っていない。

また成牛一頭当たりの飼料作物付け面積も、飼料準備量も、三十九年の岡山県平均(一戸当たり飼料作物作付け面積五二a、一頭当たり一七a)よりは多いが、コン

三十八年に畜舎が全焼しており、現在のものはその跡に建てているもので、緊急式の極めて簡単なもので、天井も低く

しかばん狭く、労働には不便な点もあると

見受けられる。しかし、そのため經營費の節減に役立っている。建物施設、農具等の構造、種類は酪農經營の近代化、合理化につながる重要なものであって、飼

養管理労働、乳牛の能力などに影響してくるが、特に酪農機具一貫性が必要であ

る。しかし直接に生産や収益につながつ

ているものでないため、必要以上の施設機具投資をしないことが大切である。

とくに酪農經營の場合は固定資本が多

くかかり、回転率も悪いものであるが、

固定資本、流动資本を合せた総投下資

本額は一六一萬で、成牛一頭当たり二三万

円となる。固定資本比率は五七・二%と

すぐれている。自己資本比率も七七・〇%

%であり、昭和四十年の終りには全て自

己資本に置き換えられている。

常三〇万円が限界とされているものが一萬五千円と極めて低額となつていて。つまり流动資本をみると、約六九万円で、成牛一頭当たり八万六千円である。流動資本の大半を占めるものは、飼料費、労働費であるが、この二つの合計が五三

万円で七六・六九%を占めている。

固定資本、流动資本を合せた総投下資

本額は一六一萬で、成牛一頭当たり二三万

円となる。固定資本比率は五七・二%と

すぐれている。自己資本比率も七七・〇%

%であり、昭和四十年の終りには全て自

己資本に置き換えられている。

総資本回転率が八九・八%となかなか

成績がよいが、以上のように資本額が低

いためによいのであるから、これをもつ

て經營の内容をよいということに必ずし

も認めるわけにはいかない。

## 六、經營當収支

経営収支を企業的なやり方で示したのが第四表である。所得は五三万六千円、純収入八万五千円、所得率三七・〇%である。

多頭化は行われているが、土地条件の悪いところでもあって利潤は低いわけである。

飼料費が費用の七四・四%を占め、経営収入が上っていることは立派である

當を圧迫している。しかしながら、全述

しているように、飼料給与面では過度の

多給もないようであるから、購入飼料に

頼らなければならぬような経営を、畠地の利用による基礎飼料の増産を図り、それによって経営の改善をしなければならない。

成牛一頭当たり粗収入八万一千円は、

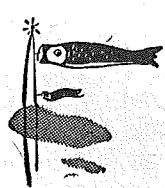
三十九年度岡山県平均一九万七千円より低いが、純収入一万六百円は県平均一千五百円を上回っている。これは、労働費がかかっていないことと、償却費が少ないことによるものである。

## 七、資本の収益性は

項目	指標	備考
資本	投下資本額 固定資本 流動資本 成牛1頭当たり投下資本	1,613,105 922,152 690,950 投下資本÷8
	固定資本比率 自己 "	57.2% 77.0%
	総資本回転率 自己資本回転率 固定 "	89.8% 116.6% 157.1%
利潤	利潤率 粗収入対純収益比率 資本1,000円当たり純収益 総資本収益率 自己資本収益率	15.8% 5.8% 52円 5.2% 6.8%
損益分岐点	変動費 固定費 " (自労を含まない時) 損益分岐点の費用 " ( ) 損益分岐点率 " ( )	730,645 633,613 361,903 1,278,203 730,077 88.2% 50.4%

経営経済関係の指標を第五表に掲げてあるが、見てわかるように資本の回転率は現状では極めてよいが、しかしこれから増頭してゆくためには基盤整備に金がかかるので、今後これに対処して自己資本の蓄積を図る必要がある。資本の回転率がよいのに他の指標が悪いのはやはり飼料費のかさみすぎによるもので、酪農專業としての今後の課題は、飼料基盤を確立して増頭を図り所得の増大を目指すことが第一である。増頭した後の総資本収益率が一〇%以上にならなければ酪農経営者として資格者とはいえないと考えられる。

(文責孝忠稔右)



## ブラジルの畜産事情

# 熱帯牧草の話

海外技術協力中南米派遣農業専門家 田中文哉

「家畜に給餌される飼料の量のみならず栄養上の質を改善しただけでも、熱帯の家畜生産力の向上に対しても、多大の寄与を行えることは疑いない。選抜された植物の種類が普遍的な環境に順応でき、しかも土壤を保全するものとすれば、その作付け増加もしくは野生の牧草に替えて良質の牧草を植えることでさえ、栄養分の供給を大幅に増大できる。(ブラジルで作付けされている二十二種に及び三十七種類の牧草の一覧表では、十種類が一〇パーセント以上の生たん白質を含有していることが示されている。) (ダグラス・H・K・リー著、熱帯における気候と経済開発八十頁)」

ブラジル政府農務省発行の『数種の牧草に関する調査』によると、ブラジルで奨励したい牧草として禾本科三十九種、アメ科二十八種、冬作牧草十三種を紹介しています。いまブラジルはどの州に行つても、どの牧草が適しているのか、どうしてそれを作るか、大農場主はこの話題でもちきりです。この二、三年の間に、ようやく自然草による放牧経営から牧草作による放牧経営の必要性が認識されるようになりました。現在ブラジルには約七九八五万五千頭の牛が飼われているという統計がみられます。その飼育頭数の順位をみると、エミナスゼライス州(二二%)、サンパウロ州、マットグロッソ州(一四%)、リオグランデスール州(一

%)、4ゴヤス州(九%)、5バイア州(七%)となつており、ブラジルの熱帯地域を代表する地方、すなわちアマゾン流域のアマゾナス州やパラ州あるいは北東地方であるところのセアラ、リオグランド、ノルテ、パライバ、ペルナンブコ等の地方は牛の飼育頭数がぐつと少くなっています。

この一つの大きな理由は、熱帯における牧草の問題と断じてよいでしょう。現状では、草特に野草生育条件のよいところが家畜(牛)の主な生産地となっています。例えばマットグロッソ州の如きは大きなパンタナール(湿地)にある草が家畜の生命を支配しているのです。

牧草栽培の状況を見ると、いわゆる欧洲型の農業を經營している地方、すなわちブラジルの南部を占めているサンタカラーニャ、リオグランデスールの二州では、乳牛、養豚の經營が主体となっています。そのため、煙作の輪作体系の中に牧草が重要な役割をもつて作付けされています。しかし、他地方の放牧經營のところではまったく野草にたよっているのみで、ここ二、三年の間にようやく牧草の必要性がわかり、研究栽培に取り出しました。栽培牧草に対する栽培の知識は非常に低いのが現状で、その改良のためどの州も

優良種子の配布とその普及におおわらわの状態であります。いまこちらの試験場で試作されているもののなかに、日本産のクズの名がみられます。

優良牧草なくしては優良家畜は生まれません。ちなみに世界地図を広げてみると、熱帶に属する地域ではどこも畜産王国を作っている国は見当りません。しかし、ブラジルは国が広大で、熱帶、亜熱帶地域を含めると世界でも優位にある。前述のように畜産の生産性は極めて低い。その根本的原因は、家畜の保健衛生に直接関係を持つ熱帶氣候、間接的関係をもつ、熱帶氣候からくる牧草の劣性の二つといつてよいでしょう。気候がよいのでどの草も丈夫は大きくよく育つが、質の面からみると必ずしもよいものばかりと言えません。牧草を普及させる意味から、道路わきにコロニアンという牧草をところからまわづ播いていますが、草叢のようになって家畜も入っていけない状態のところも見受けられます。放牧用牧草として利用するか採草用牧草として利用するかの問題もあるが、とにかく牧草普及は、いま著についたばかりです。これの普及いかんによってブラジルの畜産事情も大いに改良されるものと思われます。

## 豚の寄生虫とその駆除について

指導課 大塚 久二夫

食肉需要の増大と変化に伴い、ブロイラーの生産は全国的に急激な増加をしているが、品質に対する一般的の知識は未だ低く、ブロイラー生産の先進県を誇る本県でもそのそしりは免れない。

岡山県養鶏協会では、ブロイラーの品質向上と生産經營技術の改善に資する目的として第一回ブロイラー共励会を開催し、三月二十二日林薬品ホールで搬入された出品ブロイラーの審査と一般展示を、三月二十三日に葦川会館で上位入賞ブロイラーの一般展示とその賞状贈呈式を行なった。

食肉需要の増大と変化に伴い、ブロイラーの生産は全国的に急激な増加をしているが、品質に対する一般的の知識は未だ低く、ブロイラー生産の先進県を誇る本県でもそのそしりは免れない。

岡山県養鶏協会では、ブロイラーの品質向上と生産經營技術の改善に資する目的として第一回ブロイラー共励会を開催し、三月二十二日林薬品ホールで搬入された出品ブロイラーの審査と一般展示を、三月二十三日に葦川会館で上位入賞ブロイラーの一般展示とその賞状贈呈式を行なった。

豚の主な寄生虫としては、蛔虫、肺虫、フンカソ虫、鞭虫、腸結節虫の五種類があり、これらの寄生虫による共通の弊害は発育が阻害されることで、我国の豚が年間に損耗する栄養物の損失は経済的に極めて大きい。

◎豚蛔虫——殆んどの豚に寄生しているもので、その大きさは♀の大きいもので三五~四〇cmもあり、♂では一五~二五cmくらいで、一般に生後四~五ヶ月(体重五〇kg)くらいまでは感染率も高く、アスカロン、ヒスタミン等の溶血毒によって貧血や神経を刺激してテンカソ虫発作をおこし、発育を阻害してその被害も大きいが、成豚になるとしたがって感染率や弊害も次第に少なくなる。子豚の分娩時期からみれば、春から夏にかけての生産子豚は寄生率が高くなる、秋から冬にかけての分娩豚に寄生率が低い。一般的に食欲が悪くなったり良くなったり、さかんに餌の水を吸つたり、石けんの生産子豚は寄生率が高いもののかんだり、毛が伸びちぢれたりする。駆虫薬としては各種ある。離乳前生後四〇~五〇日に第一回、離乳後

## 寄生による影響

豚の主な寄生虫としては、蛔虫、肺虫、フンカソ虫、鞭虫、腸結節虫の五種類があり、これらの寄生虫による共通の弊害は発育が阻害されることで、我国の豚が年間に損耗する栄養物の損失は経済的に極めて大きい。

◎豚蛔虫——殆んどの豚に寄生しているもので、その大きさは♀の大きいもので三五~四〇cmもあり、♂では一五~二五cmくらいで、一般に生後四~五ヶ月(体重五〇kg)くらいまでは感染率も高く、アスカロン、ヒスタミン等の溶血毒によって貧血や神経を刺激してテンカソ虫発作をおこし、発育を阻害してその被害も大きいが、成豚になるとしたがって感染率や弊害も次第に少なくなる。子豚の分娩時期からみれば、春から夏にかけての生産子豚は寄生率が高くなる、秋から冬にかけての分娩豚に寄生率が低い。一般的に食欲が悪くなったり良くなったり、さかんに餌の水を吸つたり、石けんの生産子豚は寄生率が高いもののかんだり、毛が伸びちぢれたりする。駆虫薬としては各種ある。離乳前生後四〇~五〇日に第一回、離乳後

食肉需要の増大と変化に伴い、ブロイラーの生産は全国的に急激な増加をしているが、品質に対する一般的の知識は未だ低く、ブロイラー生産の先進県を誇る本県でもそのそしりは免れない。

岡山県養鶏協会では、ブロイラーの品質向上と生産經營技術の改善に資する目的として第一回ブロイラー共励会を開催し、三月二十二日林薬品ホールで搬入された出品ブロイラーの審査と一般展示を、三月二十三日に葦川会館で上位入賞ブロイラーの一般展示とその賞状贈呈式を行なった。

最優秀出品一点に農林大臣賞組合生産の雑多数上位に入賞

## 盛會だつたブロイラー共励会

最優秀賞 (五点)  
農林大臣賞 キンバーケーク



と共に一般展示を行なった。

最優秀賞 (二点)

農林大臣賞 キンバーケーク

(岡山県養鶏加工連出品)

岡山県知事賞 キンバーケーク  
(中島昭洋氏出品)

優秀賞 (五点)

2 フクダライン309 (神崎伸紀氏)

3 キンバーケーク (難波潔氏)

4 キンバーケーク (石原尊氏)

5 バンエーカー (石井正志氏)

最優秀、優秀の上位入賞七点は、翌三月

二十三日、岡山県養鶏協会・岡山県栄養改善協会共催の「鶏卵肉消費促進運動」

昭和四十年度最終行事として葦川会館で開催されている「鶏卵肉料理コンクール及び講習会」会場に一般展示され、出

席者八百人外大な銘銘を与えた。

ブロイラー共励会は、生産者はもとよ

り関係機関に多くの関心をよび、副賞等も多数に上り、非常に盛会であった。

なお、出品多數中組合が生産した初生

雛から育成されたキンバーケークが入賞

点数の過半数を占め、しかも農林大臣を

はじめ上位入賞を独占的に得たこと、大型用の出品がほとんどを占めた中に、僅

か二点出品された中型用フクダライン

309が二点とも入賞し、そのうち一点は

上位に入賞したことは共に生産者に極め

た頃と、その後、体重五〇kgくらいまでは毎月一回定期的に行

い、以後は必要に応じて行えれば

よい。妊娠や授乳母豚にやる場合

は胎後一ヶ月頃に多少高価でも副

作用の少ないものを用いる

ないよう、例えば、妊娠では受

胎後一ヶ月頃に多少高価でも副

作用の少ないものを用いる

◎豚肺虫——最近、咳をして

発育が悪くなくて、しかも寄生虫として問題となっているもの

で、これはミミズ(中間宿主)

を食うことによって肺の小気管

支寄に生し、フン便検査をして

も虫卵が発見しにくいので、原因不明の発育不良豚として取り扱われることが多い。駆虫薬と

しては的確なものがないので、

豚舎の床をコンクリートにして

清潔、乾燥に保ち、豚舎や運動場のミミズを駆除したり、豚に

糞便を補強し体力を養つて予防

する以外はない。

◎フンカソ虫——豚の寄生虫

のうちで最も早く感染し(出生直後で八日目に成虫となる)腸

(特に白痢)やヒネ豚(石豚などといわれる発育不良の原因となつて)の原因と



て注目された。特にフクダライン309の入賞は、ブロイラー消費市場に、中・小型の需要が多い折柄、ブロイラー育成養鶏家と流通業者に多くの関心を集めたものであった。

## 豚の寄生虫感染の症状

項目	食欲不振	下痢	腹痛	セキ	呼吸	貧血	発育不良	後軽マヒ	症状不明
豚	○	△	○	○	○	○	○	○	○
豚	〃	△	○	△	○	○	○	○	○

表2 審査委員表

審査委員長	本会 桜田精一	審査顧問	藤星加	本藤	助郎輔
審査委員		同	之	虎松純	之
全般	恒男	審査補助委員			
北海道大学教授	瀬藤・9部				
東京大学教授	可元				
A班(1・5・9部)	敏敬				
本会(北海道支局)	夫止篤恒				
本会	牧中工根				
本会	神大久保垣井				
新冠種畜牧場技官	昌繁達				
B班(3・6・10部)	徳瑛光郎				
農林省家畜改良課官	大桧今				
福島種畜牧場試験官	高木久保垣井				
福島種畜牧場技官	高木久保垣井				
C班(2・4・7・8部)	男郎孝一夫				
新冠種畜牧場技官	宗禄操邦				
新本本本日高種畜牧場技官	今磯大上上				

## いよいよ審査開始

第三回全日本ホルスタイン共進会審査報告

わが国の酪農は、農業成長部門の一つとして強く農政により上げられ、一般にも広く宣伝され一応の伸展をみていますが、反面その経営内容には未だ未熟なものが多くあります。従って、強健で連産性高く、勝れた泌乳能力を持つことが生産費を低減する有力な要素となります。

農林省は、昭和三十七年十二月乳牛の改良目標を公表し、乳量の増加と乳質の改善、強健性、飼料利用性の増進、体型では、乳房、乳頭の形状、付着と後軀の改良、体型の齊一化等を図り、乳量は昭和四十六年に全国平均で五、四〇〇Kgを

極めて深いよう感じられた。午後一時から個体審査にはいる。全国の出品者はもちろん、各県の関係者の目はいつに審査に集中された。第二日目は比較審査に移り、審査員の一挙手一投足によって各具関係者は一喜一憂させられた。第三日には最終比較審査が行われ、上位入賞牛にはリボンの装着が行われたが、この瞬間に全てこれ等出品者にとって永年の劳

間、第四次におよぶ選抜検査を実施し、長、岡師酪農試験場長、永井酪農係長、県酪から木村業務課長の四名が決められ、昨年六月九日から本年一月十九日の間、県下うまく具さに審査してまわり、選出された精銳四頭が福島市に送られる。代表牛として選ばれた牛の部別は、三部と四部と六部に属し、未経産三頭、経産一頭の割合であった。

代表牛として選ばれた牛の部別は、三部と四部と六部に属し、未経産三頭、経産一頭の割合であった。その後、二月十七日、出品牛最終打合が開催され、翌日、三月十八日から晴れの審査が始められたが、九時からの開会式には常陸宮ご夫婦がご臨席のもとに行われ、全牛を親しくご供覧になり、乳牛に対する关心が最も多く宣伝され一応の伸展をみています。例えば、多頭化と飼料生産基盤の不均衡、機械化と飼育乳牛との不調和、牛乳流通過程の複雑性、社会経済環境の変化に伴う生産費と乳価との不つり合等が挙げられます。特に牛生産費の相関度では飼料費に次いで高いのは泌乳能力であります。従って、強健で連産性高く、勝れた泌乳能力を持つことが生産費を低減する有力な要素となります。

農林省は、昭和三十七年十二月乳牛の改良目標を公表し、乳量の増加と乳質の改善、強健性、飼料利用性の増進、体型では、乳房、乳頭の形状、付着と後軀の改良、体型の齊一化等を図り、乳量は昭和四十六年に全国平均で五、四〇〇Kgを

さきに第三回全日本ホルスタイン共進会が開催されました。昭和三十六年においては、乳量は全国平均四、八〇〇Kgと推定されました。昭和四十年度には大約五、〇〇〇Kgと推定されます。これらと

# 酪連だより

花尾省治

## 第4回

### 全国ホルスタイン共進会を顧みて

五年毎にめぐってくる全国ホルスタイン共進会(第四回)が、去る三月十八日から二十二日までの五日間にわたって、福島市福島競馬場で開催された。前回第三回ホルスタイン共進会は信州松本市で開かれ、開催時期も今回と同じ三月二十三日から二十七日まで、今回以上の寒さで霧や雪に見舞われ、皇太子ご夫妻のご台臨のときは翼の中でお出迎えしたことが思い出される。

福島市は阿武隈川の左岸、須川との会合点に位し、北に信夫山を負う板倉藩三万石の城下町である。また、福島県といえば、三千メートル級の大燧岳、飯豊のほか、吾妻、安達太良の諸連峰および磐梯の各山や、飯坂、東山等多くの温泉地としても知られている。この点も前回開催地の北アルプスの連峰と温泉地の信濃地と似かよっている。また、管内の会津市は、鶴ヶ城落城と共に白虎隊士十九名が壮烈な自刃を遂げた地として余りにも知られたところである。

さて、今回の全国ホルスタイン共進会出品実頭数は二八一頭(前回二三六頭)で、これが部別は、一部から十部(前回九部)にわけられた。特に、前回のホルスタイン未経産の部は一八カ月から三〇カ月未満だったのが、今回は一八カ月から二四カ月未満と二四カ月から三〇カ月未満の二つに区分された。

部別	区	分		出品目標
		牡	牝	
第1部	ホルスタインの同	30月未満	30月未満	20頭
第2部	同	12月以上	12月以上	40"
第3部	同	18月以上	18月以上	40"
第4部	同	24月以上	24月以上	30"
第5部	同	30月未満	30月未満	30"
第6部	同	24月以内	24月以内	30"
第7部	同	30月未満	30月未満	30"
第8部	同	30月未満	30月未満	25"
第9部	(1)(2)父頭	12月以上	12月以上	15組
第10部	母系牛群(1)(2)母頭	30月未満	30月未満	10組

## 本県出品牛について

今回の出品牛選抜については、まず、

会を出品組合もはじめて開催、出品への

選抜委員として県関係から出口畜産課長、岡師酪農試験場長、永井酪農係長、

牛の無事輸送を願い、貨車には責任者として獣医師が乗り込むこととした。三月十三日一八時、落合駅から北酪関係の二頭がまず発車、岡山駅から同日二二時に旭酪、山酪管内の各一頭が出発し、福島には北酪管内のものが十五日一八時、旭酪、山酪のもの十六日一二時、無事到着をみた。また、この貨車を追つて県出品委員が先発し、続いて県酪理事、関係者が遂次県選抜牛の成果を見るため福島市へとつめかけたのである。

## 第二部

により、前回より一部門増加して一〇部に分け審査しました。即ち、第一部は、一二カ月以上三〇カ月未満のホルスタイン種牡二頭、分二部同経産一二カ月以上五六頭、第三部同一八カ月以上二四カ月未満三八頭、第四部同二四カ月以上三〇カ月未満三三頭、第五部同経産四八カ月未満一六頭、第六部同経産四八カ月以上の高等登録牛三八頭、第七部ホルスタイン種牡二カ月以上三〇カ月未満八頭、第八部同経産二頭、第九部父と同じくする異母による娘牛四頭一組として、一四組（未経産九組、経産五組）、第一〇部母と父を異なる娘牛二頭計三頭二組のもの九組とで延べ三〇六頭であります。

第八部までの個体間の比較審査の外、種牛としての真の価値を推定するため、体型、資質、能力等の遺伝的検討をする上に極めて重要な役目をする第九部、第一〇部の出品が、前回の八組に比較し、それぞれ一四組、九組計二三組と格段の増加を見たことは、共進会が今後改良上に果す効果は、さらに著しくなるものと推定され、誠にご同慶に耐えません。また從来わが国ホルスタインの欠点とされていた乳器についても特に部は設けませんでしたが、出品牛より優秀なものを選び薦賞することに致しました。以下各部の審査結果の概要を申し述べます。

この部の出品は五六頭に及んでおりましたが、全般的に優良なものが多く、ところに過肥状態のものが少なくなったことは、出品者の飼養管理が向上改善されたものであります。次第であります。

一般に発育は極めて良好で、一部を除いて、十分な体積を有しております。品強健なものが多く見受けられます。品位、資質の面もかなり向上していると受けられます。

しかし、四肢の弱いもの、背線のゆるいもの、肩の厚いもの、尾付の悪いもの、その他臍の位置の低いものなどがかなり見受けられましたので、今後これらの点について改善されるようご努力頂きたいと思います。

次に名譽賞に擬しました二二七号牛は一才三月であります。乳房の質、形状、附着共に良好で、がやや狭く外向である点であります。

優等賞一席に擬しました二二二号牛は一才三月で、発育は極めて良好であります。難をいえば前肢の踏み方好であります。難をいえば前肢の踏み方好であります。

み、背線も強直で、各部のつりあいも良

好であります。胸幅やや不足し、臍の

表3 岡山県出品牛区分

第二部 ホルスタイン種牡牛		未経産	生後	12月以上	18月未満	岡山県	岡山県真庭郡久世町三崎矢谷登
228	ホームステッド ウォーカー パーク アスター 715136	39 12.5	父 第2 ウォーカー パレード 37866 母 ホームステッド ウォーカー アドミラル パーク 600040			岡山県	岡山県真庭郡久世町三崎矢谷登
238	シェパード エムパイア グローリー ベッス 702344	39 11.22	父 第15 エムパイア 33074 AR 561 7☆ 母 シェパード グローリー レーキサイド ロメオ 513382			岡山県	岡山県西大寺市吉塔谷口若松
第四部 ホルスタイン種牡牛		未経産	生後	24月以上	30月未満	岡山県	岡山県真庭郡落合町西河内定賀寿男
412	ボープ ホロー イムペリアル ヘーロ 640270	39 1.17	父 コバー サー ホロー ロメオ 38054 母 ホープ ガヴァナー グルーチェ ヘーロ 457264			岡山県	岡山県真庭郡落合町西河内定賀寿男
第六部 ホルスタイン種牡牛		経産	3産以上高等登録牛				
604	セジス ガヴァナー グラハム アイダ 421377 AR 80246	36 7.2	父 第60 カーネーション 866 HAH AR 176 6☆ 母 セジス ガヴァナー パーク ブライド 4f 338179 AR 56184 S☆			岡山県	岡山県小田郡矢掛町谷森清助

表4 岡山県出品牛入賞一覧表

第二部 ホルスタイン種牡牛		未経産	生後	12月以上	18月未満	岡山県	矢谷口若松
一等賞				20点			
228 ホームステッド ウォーカー パーク アスター 715136				39.12.5		岡山県	矢谷口若松
238 シェパード エムパイア グローリー ベッス 702344				39.11.22		岡山県	矢谷口若松
第四部 ホルスタイン種牡牛		未経産	生後	24月以上	30月未満	岡山県	定賀寿男
一等賞				12点			
412 ボープ ホロー イムペリアル ヘーロ 640270				39.1.17		岡山県	定賀寿男
第六部 ホルスタイン種牡牛		経産	3産以上高等登録牛				
二等賞				18点			
604 セジス ガヴァナー グラハム アイダ 421377 AR 80246				36.7.2		岡山県	谷森森

関連して、過去五年間に乳牛の飼養管理特に子牛の育成法の改善と遺伝的素質とがどの程度に向上したか、誠に興味あることであり、またこれを確認することが将来の改良を伸ばすためにも極めて必要なことであると考えます。

かかる時に、第四回全日本ホルスタイン共進会が酪農に関連深い東北の福島市で開催されましたことは、誠に意義深いものがあります。私共審査員一同は、日本ホルスタイン登録協会規定のホルスタイン種審査標準に準拠し、慎重かつ公平な審査を牛の現状について行ったのであります。申すまでもなく乳牛の価値は能力にあり、かつ種牛としては、この經濟形質を確実に子孫に伝えるものでなければなりません。従って乳牛の完全な評価は、血統、能力、体型と後代調査との四つの要素によるものであります。本共進会においては、あくまでも牛の現状においての体型、資質の審査を行い、血統、能力等は参考にいたしたに過ぎません。

今回も出品総頭数は、四十二都道府県よりの二七八頭であります。前回よりも五五頭の増加であります。なお奈良、大阪、高知、山口の諸府県よりの出品がありませんでしたが、高知、山口については出品予定牛の事故等によるもので、この点心から同情申し上げます。今回もこれら出品牛をホルスタイン種、同種系、未経産、経産、性、年令等

位置が若干低いように見受けられます。

優等賞二席に擬しました二三四号牛は一才三月であります。乳房は極めて良好で、いかにも伸び伸びとした優美な姿をしており、各部のつりあいも良好であります。

次に名譽賞に擬しました二二七号牛は一才三月であります。乳房の質、形状、附着共に良好で、がやや狭く外向である点であります。

優等賞も一席に擬しました二二二号牛は一才三月で、発育は極めて良好であります。難をいえば前肢の踏み方がやや狭く外向である点であります。

優等賞も一席に擬しました二二二号牛は

この部の出品は、三三頭であります。現在一段と改善を要する点と思われます。しかししながら肩の悪いものも若干見出され、また一部には管理の失宜により、体の緩いものがあり、肢蹄共に後脚の弱いのが共通の欠点であります。また乳頭の間隔がやや狭く配置されておりますが、体積において前記二頭に劣り、乳頭の間隔がやや狭く配置されております。

次に名譽賞に擬しました二二七号牛は、その附着が緩く、かつ乳区間の切れ込みが深く、乳頭の形状の不良なものや配列の悪いものが認められますことは遺憾であります。

次に優等賞二席に擬しました四二三号牛は、体積と品位に富み、栄養も適度であります。しかししながら肩の悪いものも若干見出され、また一部には管理の失宜により、体の緩いものがあり、肢蹄共に後脚の弱いのが共通の欠点であります。また乳頭の間隔がやや狭く配置されておりますが、配列の狭いのが欠点であります。

次に優等賞三席に擬しました四二六号牛は、四二三号牛と同様に、よく発育し、大柄で、体積に富んでいますが、前記二頭に比較して背線から腰がやや弱く、後軸も若干充実を欠くうちみがあります。また乳用牛としての特質は前記二頭に劣ります。

次に肢蹄では、前肢が外向肢勢をしていましたが、胸の張りが不足している欠点があります。また乳房の附着形状は普通でしたが、乳頭の配列の狭いのがおしい点であります。

この部の出品は三八頭であります。先ず総体を概観致しますと、前回に比し、全般的に水準が向上し、優劣の差が小さくなっています。また全般に牛が大型化しており、体高が一四五種以上のものが九頭もあり、中に一四八種を超えるものも見受けられます。

一般に品位あり、肋張りがよく、中軸

## 第四部

この部の出品は、三三頭であります。今まで全般的な概評を申し上げますと、出品牛全体を通じて二、三のものを除いて、他はいずれも発育がよく、ホルスタイン種標準をはるかに上回った大柄であります。しかしながら肩の悪いものも若干見出され、また一部には管理の失宜により、体の緩いものがあり、肢蹄共に後脚の弱いのが共通の欠点であります。

次に名譽賞に擬しました二二七号牛は、その附着が緩く、かつ乳区間の切れ込みが深く、乳頭の形状の不良なものや配列の悪いものが認められますことは遺憾であります。

次に優等賞も一席に擬しました四二三号牛は、体積と品位に富み、とくに資質の点が優秀であります。乳器の点では、乳房の附着は良好であります。形状には若干の難点があります。

## 第六部

この部の出品は三八頭であります。

先ず総体を概観致しますと、前回に比し、全般的に水準が向上し、優劣の差が小さくなっています。また全般に牛が大型化しており、体高が一四五種以上のものが九頭もあり、中に一四八種を超えるものも見受けら



すごい人気です！  
県外から申込みがいっぱいです！

(本誌の)予約申込要領

誌代 一部 五十円 (送料共)  
年間予約六百円 (送料共)

但し一部購入の場合は増頁号の誌代をぞの都度の価格とし、年間予約者は増頁特集号の分も一部五十円のサービス価格とす。

集団申込の特典

十部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を四十五円にします。百部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を四十円に割引きます。但しこの場合は一括購読ですから個人別発送は致しません。

申込方法

同封の振替用紙に代金を添え住所氏名明記の上申込んで下さい。集団申込は代表者の名で何人分かを明記、誌代合計金額を払込んで下さい。但し申込みは前金を建前としておきます。

申込先

岡山市桑田町一丁目二番地  
社団法人岡山畜産会管理普及課  
(電話岡山②一八五七五番  
(口座番号)岡山八五七五番

## 畜産の指導と経営には 指標をお手元に！

### 『日本酪農の 理想設計』

一部 六〇円 (送料 二〇円)

養鶏經營指導指標

100円 (送料三〇円)

理想的な日本酪農を築き上げるための前提となる経営の目標をかけ、地帯別に四つの理想設計を例示しており、そのための技術を飼料作と労働力について検討し、さらに乳牛の改良の方針と乳牛の病気の克服について、当面の課題をふんだんに取り上げています。とくに本会発刊の酪農經營指導標と対照して下さい。

肉用牛經營指導指標

100円 (送料三〇円)

著者

農林省農事試験場畑作部

家畜導入研究室長 鈴木嘉兵衛  
日本獣医畜産大学助教授 鈴木嘉兵衛  
日本大学農獸医学部助教授 磯田政恵  
農林省農業技術研究所経営土地  
利用部養畜方式研究室 新井肇

電話 ②一八五七五  
振替口座 岡山八五七五

申込先  
社団法人 岡山県畜産会

岡山市桑田町

申込先  
社団法人 岡山県畜産会

申込先  
岡山市桑田町一の二  
社団法人 岡山県畜産会

◆編集室より

うなるか。このことは世界的な問題であると共に、我々の身近かな問題でもある。

◆畜産生産物の価格は一時よりかなり悪化したこの頃ではあるが、少し収入がよくなつたと思つたら既に物価の方は一足先にそれを上廻る上昇率を示していく。しかし、年々増加する人口のクイーブチをして儲けしろはないも当然という現下の経済情勢、全く住みにくい世の中である。

◆畜産の経営の相談にあずかる畜産コンサルタント事業の新年度の方針もだんだんにかたまりかけている。既に数ヶ市町村からの受診申込みがあつて、一部には予備調査も開始している地区もある。我流に経営分析をしていては、なかなかかこの苦境は切り抜けたいものである。

◆畜産の経営診断を受けることを大いに歓迎している。農協又は役場を通して農林事務所に申込んでもらいたい。専門家が経営診断を受けることが多い。自家経営の簿記を適確に記帳している農家が経営診断を受けていては、なかなか問題点の把握は出来ないことも多い。自分で経営診断を受けることを大いに歓迎している。農協又は役場を通して農林事務所に申込んでもらいたい。

◆本誌の発刊がまことにおくれ各位に迷惑をかけていることを深くおわびすると共に、新年度からは体制も改めて事例と新らしい試験報告を主体に、より役立つものを掲げたいと頑張る積りなのはご容謝願いたい。

岡山畜産便り(三・四月合併号)  
第十七卷 第三号  
昭和四一年三月十日 発行  
発行人 惣津律士  
編集人 千原英之

発行所 岡山市桑田町一の二  
岡山県畜産会  
電話岡山②一八五七五番  
振替 岡山市駅前町  
二丁目五番二三号  
西尾総合印刷株式会社

定価 一部 五十円 (送料共)

◆おことわり◆

都合により本誌は合併号として発刊させていただきました。読者の皆さまには大変失礼をいたしましたことを深くお詫びいたします。

つきましては、本誌を年間予約の契約をして下さっている方の契約期間を一号分だけ伸ばす処理をし、お詫びの意を表したいと存じ、予約台帳の修正をいたしますのでご了承下さい。お願い申しあげます。

◆東西対立の一方の旗頭ソ連の経営政策

最大の関心は農業問題であるという。ソ連農業の欠陥は農道の不整備と、農業機械化のおくれ等から農民の収入は低く、又農産物の価格決定の不合理、農業への官僚的な介入がありすぎる点などがあげられている。わけてもソ連の農村人口はこの数年間に十七才から二一才まで層が六百万人も減つたという。若者が村から出ていくのは低い収入、悪い労働条件、乏しい娯楽施設のためである。そしてなによりも重要なことは若者と農業熟練者を農場へかえらることだという。最新式の機械も六〇才の老夫婦では生産性を高められないという訳である。

◆経済機構は全く違つていてが日本農業も同じことがいえる。先般発表された農業白書も、じいちゃん、ばあちゃんがああちゃんの三チャンが日本農業の中心化してきていて、農業労働は女の方が男よりも多く、年令構成は年々老年化の傾向を強めていると指摘した。農業就業人口はこの五年間に四百万人減っているといふことである。農業収入の低いことが農業生産にたずさわる人を農外にはじき出している傾向は世界共通の問題であるが、一方国際連合で推計した数字によるとアジャヤの人口は年に二%増えており、それを賄なう食糧生産は〇・五%しか増えしていないと報告した。十年後にはどう